

インドの西方通商・外交政策 に関する一考察

一帯一路構想と南アジアの現状を踏まえて

2025年3月17日（月）

国際貿易投資研究所

報告者 深澤光樹（関西大学）

報告の構成

1. 問題意識の所在：南アジアと一帯一路

2. 中東諸国をめぐるインド・中国－UAEに焦点を当てて－

3. アフリカをめぐるインド・中国－ケニアに焦点を当てて－

4. インド西方地域とインド・中国の関係性に関する一考察

1. 問題意識の所在：南アジアと一帯一路

■南アジア地域と中国

- 中国は現代南アジアの政治経済関係における当事者→同地域が新たな国際政治構造に入る
- 南アジア地域経済はこの政治経済構造を軸としている→南アジア諸国はこの基本構造のなかで政治経済の舵取りをする

■南アジアの中心国、インドからの視点

- インドにとってインド亜大陸・インド洋で影響力を高める中国は脅威⇔単純に対抗関係ではない
- 安全保障上の問題から表向きは一帯一路に反対⇔AIIBやNDBからの融資を受け、また中国企業の投資を受入れている + 国際協力機関の多国間枠組みにおいても相互に協力関係にある
 - ☞ 両国はまさに対立と協力の関係にある
- また、インドはQUAD2.0で中国包囲網を形成し、大国としての位置づけ・南アジアにおける中心性を高めようとしてる

1. 問題意識の所在：南アジアと一帯一路

■インド周辺国からの視点

- インド外交（インド依存）のバランスを取ることができ、また中国の進出を意識し、**周辺諸国と政治的経済的結びつきを再び強めようとするインド**からも経済成長の機会を得る
- 印中双方との関係性構築には常に困難がつきまとい、周辺国によって問題の噴出の仕方が、政権交代からインフラプロジェクトの奪い合いまで様々

■インドと中国の南アジア諸国へのアプローチ

- インドはテリトリーと捉える南アジア周辺諸国の背中に中国の存在を意識し、政治経済関係を修正・構築
- 中国もまた同様に、南アジア諸国の背後にインドの存在を意識している

1. 問題意識の所在：南アジアと一帯一路

■ インド洋を挟んだ西方地域、中東・東アフリカ地域

- ・ インドは中国の影響力を南アジア周辺諸国とはまた異なる形で注視
- ・ インドは地理的にも歴史的にも結びつきが強い西方地域と、独自の政治経済関係を構築
- ・ 同地域における一帯一路構想に代表されるような中国のプレゼンスの拡大を意識し、インドはアジア・アフリカ経済成長回廊（Asia-Africa Growth Corridor：AAGC）や、昨今のインド・中東・欧州経済回廊（India-Middle East-Europe Economic Corridor：IMEC）といった多国間協力の枠組みで対応

■ 本報告の目的

- ・ インド・中国とインド西方地域との政治的、経済的關係性を把握し、またインド西方地域諸国が印中とどのような關係性を構築しているのか、その概要を確認する。
- ・ インドの西方地域諸国として、中東地域のアラブ首長国連邦（以下UAE）、東アフリカ地域の基点となるケニアを取り上げる。

■ 以下では、インド・中国の中東とアフリカ地域における政治経済の關係性を概観した後、両国のプレゼンスが大きいUAEとケニアを事例に、印中との通商・外交關係の概要を確認していく

なお、本報告は、国際貿易投資研究所2024年度「インドの対西方経済政策の現状と展望調査研究事業」調査の報告書所収の拙稿、深澤光樹（2025）「中東・アフリカ地域をめぐるインドと中国の外交・通商関係－アラブ首長国連邦とケニアを事例とした一考察－」国際貿易投資研究所（発行予定）を編集し作成したものである。詳細の出所などについて、適宜参照されたい。

2. 中東諸国をめぐるインド・中国 —UAEに焦点を当てて— 【インドと中東地域】

- インドの中東諸国からの輸入額：24.1% 輸出額：15.0%（2023年）
 - UAE、サウジアラビア、イラク
- インドの中東諸国からの輸入品目：資源・エネルギー
 - 原油の輸入 ロシア：9.1%、UAE：7.1%、サウジアラビア：4.7%、イラク：4.4%
- インドの輸出品目：ジュエリー、アクセサリ類を中心とする貴石・貴金属およびその製品、鉄鋼・非鉄金属およびその製品、機械類、電気製品など
 - 輸出先 UAE、サウジアラビア、カタール、イスラエル、オマーン、イラク
- 中東で暮らすインド人：900万人
 - 在外インド人人口が多い国上位20カ国 UAE（2位：356万人）、サウジアラビア（5位：246万人）、クウェート、カタール、オマーン、バーレーン が続く
- 国別海外送金流入額ランキング
 - UAE：2位、サウジアラビア：5位、クウェート：6位、オマーン：7位、カタール：8位
- インドにとって中東地域の経済的な重要性が増す
 - ⇒ 外交面や安全保障関連でもインドと中東諸国は接近

2. 中東諸国をめぐるインド・中国 —UAEに焦点を当てて— 【インドと中東地域】

■ モディ政権以降（2014年）の首相の中東訪問回数：17回

- ⇨ その他地域と比較しても多く、中東との政治関係性強化が試みられている

■ 中東地域におけるアメリカのプレゼンスの後退

- 中国もまた政治的にも経済的にも影響力を強めている
- インドは経済安全保障の観点からも、アメリカの安全保障の傘の下にあることを前提としながら、かつ中国と正面から衝突する形を避けながら中東諸国との安全保障面での連携を強化させている

■ I2U2（インド、イスラエル、UAE、アメリカ）が形成（2021年）

- アブラハム合意（The Abraham Accords）：アメリカは2020年にイスラエルとUAEの国交正常化の仲介を行う
- これまでイスラエルとUAEとの通商外交両面から関係性を強化してきたインド：中東地域の貿易促進と開発協力に関心が強い

■ IMEC（インド・中東・欧州経済回廊）の誕生

- EUを加えたインドから中東諸国を経て欧州まで至るコネクティビティ・プロジェクト
- 2023年9月にニューデリーで開催されたG20の会合

アフリカ・中東諸国の在外インド人人口（2024年）

（単位：人）

アフリカ諸国（北アフリカ・サブサハラ以南アフリカ）				中東諸国				
	国名	人口		国名	人口		国名	人口
1	南アフリカ共和国	1,700,000	24	ガボン	1,500	1	アラブ首長国連邦（UAE）	3,568,848
2	モーリシャス	894,848	25	ギニア	1,441	2	サウジアラビア	2,463,509
3	ケニア	80,000	26	ジブチ	1,008	3	クウェート	995,528
4	タンザニア	55,000	27	カメルーン	1,000	4	カタール	836,784
5	ナイジェリア	51,800	28	ベナン	1,000	5	オマーン	686,635
6	ウガンダ	37,660	29	トーゴ	983	6	バーレーン	327,807
7	ザンビア	30,000	30	南スーダン	900	7	イスラエル	105,000
8	モザンビーク	28,262	31	コンゴ共和国	850	8	イラク	17,104
9	コンゴ民主共和国	20,000	32	ブルンジ	735	9	ヨルダン	17,050
10	マラウイ	16,643	33	ナミビア	520	10	イラン	10,765
11	セーシェル	13,238	34	モロッコ	550	11	レバノン	3,040
12	マダガスカル	10,500	35	ブルキナファソ	500	12	イエメン	1,120
13	ジンバブエ	10,000	36	モーリタニア	310	13	シリア	97
14	エチオピア	5,907	37	ギニアビサウ	300	14	パレスチナ	13
15	アルジェリア	3,823	38	赤道ギニア	250			
16	エジプト	3,533	39	コモロ	220			
17	シエラレオネ	3,012	40	エリトリア	172			
18	リベリア	3,002	41	ニジェール	158			
19	ルワンダ	3,000	42	チャド	120			
20	コートジボワール	2,745	43	ソマリア	100			
21	アンゴラ	2,581	44	スーダン	85			
22	ガンビア	2,120	45	中央アフリカ共和国	70			
23	セネガル	2,120						

出所：Ministry of External Affairs、“Population of Overseas Indians”を参照に作成。
 (https://www.mea.gov.in/population-of-overseas-indians.htm 2025年2月23日閲覧)

2. 中東諸国をめぐるインド・中国 —UAEに焦点を当てて— 【中国と中東地域】

■中国の中東・北アフリカ地域からの輸入額の割合：10.0%、輸出額：5.4%（2022年）

- 輸入相手国：サウジアラビア、UAE、イラク、オマーン、クウェート
- 輸出相手国：UAE、サウジアラビア、エジプト、イスラエル

■貿易品目

- 中国の同地域からの輸入品目：鉱物資源燃料
- 中国の同地域への輸出品目：機械類や電気製品、鉄鋼や非鉄金属およびその製品、衣類製品、車両関連など

■中国経済の成長：中東地域からのエネルギー資源の輸入を拡大させながら実現

- 1995年から主要エネルギー資源輸入先となり、2020年までに湾岸諸国からの石油輸入が中国の総石油輸入に占める割合は約47%
- →現在も経済の維持と安定した成長のため、中国にとって引き続き重要地域

■中東地域はエネルギー安全保障上の要所

- 中国の同地域との経済活動はインド同様にアメリカの安全保障の傘の下で発展
- 中東地域におけるアメリカのプレゼンスの後退：中東諸国と同地域の政情安定化やテロ対策、治安維持などを含めた協力関係の構築へ

2. 中東諸国をめぐるインド・中国 —UAEに焦点を当てて— 【中国と中東地域】

■中東諸国にとっての中国

- 中国はエネルギー資源の重要市場、かつ投資をはじめとした各種経済的恩恵

■化石燃料依存からの脱却

- 従来からある化石燃料依存の経済構造からの脱却、産業の多角化の課題
- 中東諸国内でのエネルギー資源消費量の増加
- 同地域以外での生産の増加、再生可能エネルギーなどエネルギーの多極化

■安全保障面での協力

- 引き続きアメリカとの協力関係を維持しながらも、同地域で影響力を高める中国、そしてインドとの連携は重要性を増している

■中国アラブ諸国協力フォーラム

- 中国と中東諸国が2004年に設置、2016年には中国アラブ政策確認書を作成することで中国と中東諸国の、一帯一路構想とその関連プロジェクトを含む包括的な協力関係を明確化
- 2024年5月にも中国・アラブ諸国協力フォーラム第10回閣僚級会議が開催され、中東諸国22カ国の代表が北京に集まる

2. 中東諸国をめぐるインド・中国 —UAEに焦点を当てて— 【中国と中東地域】

■ 中東地域と一帯一路構想

- 主要経済回廊は通らず、中国との地続きのインフラ開発も存在しない（湾岸諸国）
- 一帯一路構想には中東諸国の12カ国が参加を表明
- 各国で関連のインフラプロジェクトが進む

■ アメリカン・エンタープライズ・インスティテュート（AEI）がまとめる世界における中国の投資データ

- 中東の中でもサウジアラビア、UAE、イラク、イラン、クウェートへの投資額が高い
- 特にサウジアラビアへの投資は、調査対象となっている162カ国中、総投資額（2005～2024年）が上位に入るアメリカ（2,006億ドル）、オーストラリア（1,067億ドル）、イギリス（1,047億ドル）、ブラジル（725億ドル）に次ぐ5番目の規模となる約709億ドル

■ アジアインフラ投資銀行（AIIB）

- サウジアラビア、オマーン、カタール、バーレーン、UAE、ヨルダンが同機関設立して間もなく加盟しており、クウェートとレバノンも現在加盟予定

中東・北アフリカ、サブサハラアフリカ地域における一帯一路承認国

サブサハラ以南アフリカ諸国					中東・北アフリカ諸国			
	国名	承認年		国名	承認年		国名	承認年
1	アンゴラ	2018	24	リベリア	2019	1	アルジェリア	2018
2	ベナン	2018	25	マダガスカル	2017	2	アフガニスタン	2023
3	ボツワナ	2021	26	マラウイ	2022	3	バーレーン	2018
4	ブルンジ	2018	27	マリ	2019	4	エジプト・アラブ共和国	2016
5	カーボベルデ	2018	28	モーリタニア	2018	5	イラン・イスラム共和国	2018
6	カメルーン	2015	29	モザンビーク	2018	6	イラク	2015
7	中央アフリカ共和国	N/D	30	ナミビア	2018	7	ヨルダン	2023
8	チャド	2018	31	ニジェール	N/D	8	クウェート	2018
9	コモロ	2015	32	ナイジェリア	2018	9	レバノン	2017
10	コンゴ民主共和国	2021	33	ルワンダ	2018	10	リビア	2018
11	コンゴ共和国	N/D	34	セネガル	2018	11	マルタ	2018
12	コートジボワール	2017	35	セーシェル	2018	12	モロッコ	2017
13	ジブチ	2018	36	シエラレオネ	2018	13	オマーン	2018
14	赤道ギニア	2019	37	ソマリア	2015	14	カタール	2019
15	エリトリア	2021	38	南アフリカ共和国	2015	15	サウジアラビア	2018
16	エチオピア	2018	39	南スーダン	2018	16	シリア・アラブ共和国	2022
17	ガボン	2018	40	スーダン	2018	17	チュニジア	2018
18	ガンビア	2018	41	タンザニア	2018	18	トルコ	2015
19	ガーナ	2018	42	トーゴ	2018	19	アラブ首長国連邦	2018
20	ギニア	2018	43	ウガンダ	2018	20	イエメン共和国	2017
21	ギニアビサウ	2021	44	ザンビア	2018			
22	ケニア	2017	45	ジンバブエ	2018			
23	レソト	2019						

出所：Nedopil (2023)、"Countries of the Belt and Road Initiative"を参照に作成 (<https://greenfdc.org/countries-of-the-belt-and-road-initiative-bri/> 2024年12月13日閲覧)。

2. 中東諸国をめぐるインド・中国 —UAEに焦点を当てて— 【インドとUAE】

■インドとUAEの政治的、経済的な結びつきは強い

■インドとUAEの貿易（2022年）

- 貿易総額に占める対UAE貿易額の割合 輸入：6.9% 輸出：7.3%
- インドの対UAE貿易総額：アメリカ、中国に次ぐ3番目
- インド⇄UAE：主に鉱物性燃料、ガラス、貴石・貴金属およびその製品
- インド⇒UAE：ジュエリー、アクセサリー類を中心とする貴石・貴金属およびその製品、鉄鋼・非鉄金属およびその製品、機械類、電気製品など

■インドとUAEの投資（2023年）

- インド⇒UAE イギリスに次ぐ第二位（6%）
- インド⇄UAE シンガポールに次ぐ第二位（13%）

■在外インド人人口

- UAEの人口は約1,000万人：約350万人のインド人が暮らす
- 同国からのインドへの送金流入額は2番目（アメリカに次いで高い）
- ブルーワーカーという役割だけでなく、近年ホワイトカラーとして働くインド人も増加

2. 中東諸国をめぐるインド・中国 —UAEに焦点を当てて— 【インドとUAE】

- 政治的、経済的関係性
- モディ首相が2015年8月にインドの首相として34年ぶりとなるUAE訪問、以来急速に深化
- これはUAEにおいてはハリファ・ビン・ザイド・ナハヤン大統領（2004～2022年）の時代にあたるが、ハリファ大統領は2014年に脳卒中を発症、以降はムハンマド・ビン・ザイド・ナハヤン皇太子（2022年～現在）が実質的な首長に
- ハリファ大統領の死去により2022年からムハンマド皇太子が大統領となるが、インドとの関係は同氏が皇太子時代から現在に至るまで発展させてきた
- 2022年2月にはUAEと包括的経済連携協定（CEPA）、貿易をはじめ経済関係の更なる強化が進める
- 2023年7月にモディ首相がアブダビを訪れた際には両国中央銀行が現地通貨決済制度に関するMOUを締結し、クロスボーダー決済にインドルピーとUAEディルハムが使用可能に
- その他、2024年に2月の訪問時には IMEC構想関連の協定が結ばれている

2. 中東諸国をめぐるインド・中国 —UAEに焦点を当てて— 【インドとUAE】

■UAEムハンマド大統領のインド訪問

- G20サミットやグローバル・サウスサミット（オンライン）、バイブラント・グジャラート・グローバル・サミット（Vibrant Gujarat Global Summit）などにも参加

■UAEからインドへの投資

- アブダビ投資庁（ADIA）はインドの国家インフラ投資ファンド（NIIF）やHDFC銀行に投資
- ADIAは投資促進を目的に、モディ首相の出身地であるグジャラート州に新たに設置された金融都市、ギフト・シティにオフィスを構える予定

■安全保障関連でも連携の強化

- 特に2011年にアラブの春の影響により中東情勢が不安定化したことを背景に、UAEとインドは安全保障協力の協定を結ぶ
- 中東地域における過激派の出現やテロの勃発は、それらに関連するマネーロンダリングや密輸、人身取引、組織的犯罪を防止するための協力体制の構築のため、防衛分野も含めた安全保障面での連携を促す

■ビジネス以外の文化的交流

- アブダビに初のヒンドゥー寺院が建設、2024年のモディ首相訪問時に開設式
- インド工科大学デリー（IIT Delhi）のアブダビ校も同年初めに設置

2. 中東諸国をめぐるインド・中国 —UAEに焦点を当てて— 【中国とUAE】

■中国とUAEの貿易

- UAEの中国からの輸入額 割合：15.9%（UAEの輸入相手国として最大）
- UAEの輸出額：1.9%と7番目の規模で比較的小さい（UAEは中国との貿易で赤字）
- 中国の総貿易額から見れば、UAEとの貿易額は微々たるものになるが、中国の中東地域との総貿易額に占めるUAEの割合は高い

■投資動向

- UAEへの中国投資：2019年の中東諸国への総投資額の54%をUAEが占める

■外交関係

- 2014年以降、既述の理由から現ムハンマド大統領が皇太子時代から実質的なUAEの首長を務める
- ムハンマド皇太子が外交を担う中、中国とUAEの関係性は深められていく
- UAEは2012年に湾岸諸国で初めて中国と戦略的パートナーシップを結び、早くから一帯一路構想に協力的な姿勢を見せる
- 2015年にはムハンマド皇太子が北京で習主席を訪問し、同年にはAIIBにも加盟

2. 中東諸国をめぐるインド・中国 —UAEに焦点を当てて— 【中国とUAE】

■ 2018年に習主席はUAEを訪問（国家主席として29年ぶり）

- ムハンマド皇太子との対談の中で包括的戦略的關係に二国間の關係性を引き上げること、そして一帯一路構想への協力を確認

■ 安全保障の分野にも及ぶ協力

- 中国は中東のイスラム原理主義の台頭を、自国への脅威と見做しており、中国のUAEとの關係構築は同地域における政情不安の拡大を抑え込む意図
- このような背景からUAEの中国からの武器輸入が増加

■ 多岐分野に渡る協力關係が可能な理由

- どちらも非自由主義的な政治体制を持ち、両国とも内政干渉は行わないという点も重要

■ 近年の活発な交流

- 2024年2月には中国・UAE經濟貿易連合委員会第8回會議がアブダビで開催される
- ムハンマド大統領は2024年5月に中国を訪問し首脳會談を行い、中国アラブ諸国協力フォーラムに出席
- 同年9月にも李首相がUAEを訪れムハンマド大統領と會見

2. 中東諸国をめぐるインド・中国 —UAEに焦点を当てて— 【中国とUAE】

■ 既述のAEIのデータに基づき2005～2024年までの中国による対UAE投資

- エネルギー、建設、交通分野などを中心として投資件数は100件、総投資額は466億、特に2016～2019年にかけて投資件数・額が急増、2024年に再び増加
- ドバイの経済特区、ジュベル・アリ・フリーゾーン（JAFZA）には132もの中国企業が地域本部を置き、UAE全体では4,200社以上の中国企業が存在する他、中国の四大銀行も同国に進出

■ 中国の投資例

- 大規模クリーンエネルギー発電所Shanghai Electric GroupによりNoor Energy 1太陽光発電所
- China Machinery Engineering Corporation（CMEC）によりAl Dhafra太陽光発電所が建設され、現在までに運行している（後者は世界最大と言われている）

■ UAEのビジョンと中国

- UAEはUAE Energy Strategy 2050において炭素排出の削減の目標や、再生可能エネルギーの拡大を目指す
- 国家ビジョンとしてWe the UAE 2031ビジョンやProjects of 50に示されるようなデジタル化や産業高度化、投資誘致の促進、そして国際経済ハブ機能の強化などを掲げる
- 中東のハブ化：中国からUAEへの輸出の60%は、UAEからアフリカ諸国や欧州諸国へと再輸出されているというデータも

■ ビジネス以外の文化的交流

- 孔子学院がザイード大学やドバイ大学に設けられたりするなど、文化的交流も進む

3. アフリカをめぐるインド・中国 —ケニアに焦点を当てて— 【インドとアフリカ地域】

■2023年のインドのアフリカ諸国からの輸入額：約6.5%で、輸出額：約12.7%

- インド⇐アフリカ諸国：南アフリカからの輸入が突出して高く、ナイジェリア、タンザニア、アンゴラ、モザンビーク、そしてガーナ、ギニアなど
- インド⇒アフリカ諸国：南アフリカ、タンザニア、ナイジェリア、エジプト、トーゴ、ケニア
- インド⇐アフリカ諸国：主に貴金属・宝石類、銅関連類、鉱物性燃料など
- インド⇒アフリカ諸国：主に鉱物性燃料、医薬品、穀物や糖類、自動車・二輪車、機械類、電気製品など

■在外インド人人口が多い国上位20カ国

- 南アフリカ（8位）、モーリシャス（12位）
 - ✓ 上位50カ国まで広げると、ケニア（33位）、タンザニア（41位）、ナイジェリア（42位）、ウガンダ（45位）、ザンビア（48位）、モザンビーク（50位）
- 特にアフリカの東方およびその内陸と、南方に多くの在外インド人
- インドはアフリカ地域と英領インド時代を含め、歴史的な繋がりが深い
⇒これらの国々からの送金流入は他地域と比較して限定的と言える

3. アフリカをめぐるインド・中国 ーケニアに焦点を当ててー 【インドとアフリカ地域】

■ 2000年代に入りアフリカ諸国への接近

- 2008年にニューデリーにて第一回インド・アフリカ・フォーラム・サミット（IAFS）が開催
目的：開発援助、経済協力、人的資源開発、南南協力を軸にした協力体制の構築
- 第二回は2011年にエチオピア、第三回は2015年にニューデリーで開催（第三回はアフリカ54カ国から参加）
- 2023年にインドがG20のホスト国を務めた際にはアフリカ連合（AU）を招き、そのグローバルサウスの盟主としての存在感＋アフリカ諸国へのコミットメントの高さを国際社会にアピール

■ モディ首相によるアフリカ各国の訪問

- 2018年にウガンダを訪れ同国国会でスピーチにてアフリカがインドにとって極めて優先度の高い地域であることを強調、2018～2021年までに新たに18の大使館をアフリカに設置し、総計47つにすることを掲げ、アフリカ諸国との外交関係構築のための基盤強化を進める

■ インドのアフリカとのリンク強化

- インドと日本は、2017年にインドのグジャラートで開かれたアフリカ開発銀行の年次総会でAAGCを提案、アフリカ諸国も含めたアジア太平洋におけるインフラプロジェクトの促進に乗り出す（外交政策とするアクト・イーストの中で日本との連携）
- インドによる、一帯一路構想を軸にインド太平洋で影響力を増す中国に対する、クアッド（QUAD）を始めとした多国間協力による対応
- 中国については後述の通り、2000年に第1回中国・アフリカ経済フォーラムを開催、韓国は韓国・アフリカ協力フォーラムを2006年から開催

3. アフリカをめぐるインド・中国 —ケニアに焦点を当てて— 【中国とアフリカ地域】

■2022年の中国とアフリカ地域（サブサハラ以南アフリカ諸国）の貿易

- 中国の同地域からの輸入額は輸入総額の4.0% 輸出額 3.4%
- 中国は石炭燃料、鉄鋼、石・ガラス、鉱物などを主に輸入し
- 電気製品・機械類、鉄鋼や非鉄金属およびその製品、衣類製品、輸送用機器、プラスチック・ゴムおよびその製品などを輸出
- 同地域における中国の主な輸入相手国は、南アフリカ、ナイジェリア、ケニア、タンザニア、ガーナがあげられ、輸出相手国としてはザンビアやコンゴ、ガボンが上位に

■2012～2022年にかけて、アフリカと主要貿易相手地域・国との貿易の変化

- アフリカの貿易総額に占める各国・地域の割合は、EUが29.2%から28.0%、インドは5.3%から5.9%と若干の変化に留まった
- アメリカは8.1%から4.9%、中国は12.9%から16.1%となり、大きな変化が見られた
- 同期間にアフリカの対アメリカ総輸出額は約50%減少し、他方で中国は約13%増加
- アフリカへの投資：主要各国でFDIストックを比較した際、中国は2013～2021年にかけて68.7%増加と急速に中国からの投資が拡大

3. アフリカをめぐるインド・中国 ーケニアに焦点を当ててー 【中国とアフリカ地域】

■ アフリカと一帯一路構想

- サブサハラ以南アフリカ49カ国の内、一帯一路構想に参加するのは44カ国
- 既述のAEIのデータに基づき中国による同地域への投資状況（2005～2024年）
- ナイジェリア（381億ドル）、アンゴラ（338億ドル）、エチオピア（270億ドル）への投資額高い
 - ✓ その他：コンゴ民主共和国（225億ドル）、ザンビア（183億ドル）、ケニヤ（174億ドル）、ギニア（171億ドル）、タンザニア（160億ドル）など

■ 中国はアフリカ諸国との政治・経済関係を1990年代中盤から継続的に進化

- 2000年に中国とアフリカ53カ国間の協力プラットフォームとなる、中国アフリカ協力フォーラム（FOCAC）が初めて開催
- 同フォーラムは、当初貿易促進を目的に⇒その後2006年からは開発援助・金融や直接投資
- 2013年以降は一帯一路構想下での大規模インフラプロジェクトへのフェーズへと変化
- 2015年からは相互の政治関係の進展へ
- 2018年以降は、民主主義だけが政府が経済成長を導く上での制度基盤ではないと、欧米とは異なる価値観でアフリカ諸国を支援することを強調＋インフラ面においてはインターネット関連のインフラをはじめとするデジタル分野にまでその協力体制を拡大

3. アフリカをめぐるインド・中国 —ケニアに焦点を当てて— 【インドとケニア】

■ インドとケニアの貿易動向（2022年）

- ケニアの対インド貿易は赤字基調で、インドからの輸入額は輸入総額の10.0%　インドへの輸出：1%
- 中国（18.2%）、UAE（16.3%）に次ぐ3番目の規模
- 輸出相手国トップ10カ国にはウガンダ（1位）、タンザニア（5位）、ルワンダ（8位）など近隣のアフリカ諸国や、アメリカ（2位）、オランダ（3位）、イギリス（6位）、などの欧米諸国が入る

■ 貿易品目

- インド⇒ケニア医薬品などの化学製品、卑金属および製品、機械類、電気製品、燃料、輸送車両、農産品・食料品
- インド⇐ケニア：化学製品と農産品・食料品とで全体の三分の二を占める

■ 投資関係

- インドの対ケニア投資に関しては花卉園芸や通信、ヘルスケア、銀行業分野などがあげられる

■ ケニアとインドの二国間関係

- ウフル・ケニヤッタ大統領（2013～2022年）時代に強化
- 2016年にモディ首相はインドのトップとして35年ぶりにナイロビを訪問
- 7つのMOUおよび協定を結び、防衛面並びに貿易や開発援助など経済面の協力が約束されるとともに、ケニアのインド人ディアスポラ関連のイベントに参加
- ケニヤッタ大統領も2017年にモディ首相との首脳会談のためにニューデリーを訪れ、その前日にはグジャラート州で開催されたバイブラン・グジャラート・グローバル・サミット2017に参加
- この際にも農業分野での協力に関するMOUが締結され、その他にも二国間では閣僚級の会談が頻繁に見られる

3. アフリカをめぐるインド・中国 —ケニアに焦点を当てて— 【インドとケニア】

■ ケニアには多くのインド企業が進出

- その数は60社以上：進出企業には、Essar Energy（石油精製）、Bharti Airtel（通信）、Reliance Industries Ltd（石油小売）、Tata（自動車、IT、医薬品）をはじめ、Mahindra & Mahindra、Thermax, Wipro、Jain Irrigation Systems Ltd、Emcure、Dr. Reddy's、Cipla、Cadila、TVS and Mahindra Satyam など

■ ビジネス面において、ケニアにおける在外インド人の存在も同地で存在感を示す。

- 在外インド人は専門職の分野をはじめ幅広く活躍しており、ナレンドラ・ラバル（Devki Group of Companiesのオーナー）のような各産業で影響力を保持する者もいる他、インドから同国進出の際に橋渡しを行う役割も果たす

■ ルト大統領（2022年～現在）：インド外交は重要視

- アダニグループによる国際空港の拡張プロジェクトのキャンセル
- 2023年12月にルト大統領はデリーを訪問し、モディ首相と会談（ケニア大統領として6年ぶりの出来事）
- 二国間交流は活発で、同年8月にはケニア国防長官アデン・バレ・ドゥアレがインドを訪問し、インド国防大臣ラジナート・シンと面会し、ゴアやベンガルールにて造船所や防衛産業の視察も
- 2024年9月には第三回共同防衛協力委員会がデリーで開催され、軍事協力、軍事訓練、防衛産業およびその研究開発など防衛協力に関する話し合いの場が設けられる

3. アフリカをめぐるインド・中国 —ケニアに焦点を当てて— 【中国とケニア】

■中国とケニアの貿易

- ケニアの対中輸入総額の割合：18.2%
- 対中輸出額の割合：3.17%
- ケニアからの輸出で中国は8番目となり、ケニアの対中貿易は赤字基調
- 貿易全体としても赤字が常態化しており、年々の悪化

■貿易の品目を見ると、輸入面

- 中国→ケニア：機械類や電気製品、鉄鋼・非鉄金属およびその製品、衣類製品、プラスチック・ゴムおよびその製品、化学工業品および関連製品などが主となる
- 中国←ケニア：鉱物資源および鉱石が占める割合が高く、続いて農産物およびその関連製品が主要品目

- 2000～2018年にかけてケニアは40のローン契約を結びその額は90億ドルに達し、2005年までは1,200万ドルであった対中債務が急速に増加

3. アフリカをめぐるインド・中国 —ケニアに焦点を当てて— 【中国とケニア】

■ 両国の政治関係

- ケニアの中国接近は、ウフル・ケニヤッタ大統領の政権時期に加速
- ケニヤッタ大統領は2007年の選挙後の暴動事件について西欧諸国の批判を受け、また2013年の選挙についても懸念が示される中、東方に新しいパートナーを見出す
- 2013年に中国の習主席を訪問し、ケニア鉄道を含むインフラプロジェクトの約束を引き出す
- 2014年には習主席がナイロビを訪れケニヤッタ大統領と会談し、鉄道プロジェクトに対する38億ドルのファイナンスを行う合意がなされた（首都ナイロビと貿易港モンバサを結ぶ470kmの標準軌鉄道の工事は2014年に開始され、2017年に完成）

■ 既述のAEIのデータに基づいて中国のケニア投資の動向

- ケニヤッタ大統領時代の2013～2022年までの間の投資件数エネルギー分野、輸送セクターを中心に33件
- 2005～2024年までの中国の対ケニア投資総件数が46件：特にケニヤッタ大統領の在職時に集中

■ ウィリアム・ルト大統領以降

- ウィリアム・ルト大統領（2022年～現在）も中国との関係性を維持する姿勢が見られ、ルト大統領は2024年9月に北京で開催された第9回FOCACサミットで共同議長を務め、習主席とも首脳会談を行う
- ケニアは同月にアジアインフラ投資銀行への地域外メンバーとして正式な加盟を果たし、ケニアの中国との政治的経済的關係性は進展を見せている
- 標準軌鉄道の拡張やラム港の開発、貯油施設、その他様々なインフラ投資プロジェクトが、ファイナンスも含めて中国との協力の中で予定されており、ケニアは開発計画を描いたビジョン2030を中国との連携の中で前進させている

■ ビジネス以外の交流

- 2005年にはナイロビ大学内に孔子学園が設置された他、ジョモ・ケニヤッタ農工大学には植物園が中国の援助で作られる

4. インド西方地域とインド・中国の関係性に関する一考察

- インドも中国も、中東・アフリカ地域に対して独自のアプローチを展開している。
- 中国においては習主席、インドにおいてはモディ首相の時代から加速
- 両国ともそれぞれの地域単位でリーダーを一同に集結させる定期的なフォーラム（あるいはサミット、各種会議など様々な形式を採る）を開催
 - ・インドと中国の首脳・閣僚が直接協力関係を確認する場を定期的に設定
 - ・中国は一带一路構想と関連プロジェクトを掲げながらこれらの地域との政治的経済的関係性を構築
 - ・インドはインド太平洋においてはクアッド、中東地域においてはIMECといった形で、アメリカという大国の後ろ盾を含めた多国間協力の枠組みの中でそのカウンターバランスをとる
- 中国やインドが大々的な形で中東・アフリカ地域に接近できる背景
 - ・両国とも過去にこれら地域と宗主国と植民地という従属の関係を持たず、植民地化された過去とそれを背景とした国造りの困難性を共有できる「南」の国である
- インドも中国もトップが直接各国のリーダーを訪問
- 首脳や高官ベースで行う積極的な二国間関係の構築
 - ・相手国への訪問と自国への招待も含めた頻繁な往来を重視
- 経済的な相互利害関係（中東）
 - ・インドも中国もエネルギー資源の確保は死活問題
 - ・アメリカのプレゼンスが以前と比較して後退している中東地域
→政情安定化も含めて包括的な協力関係構築に動く必要
 - ・UAEの事例でも見たように、印中に対して消費財や耐久財、投資へのニーズが存在

4. インド西方地域とインド・中国の関係性に関する一考察

■経済的な相互利害関係（東アフリカ）

- 鉱物資源や農産物を提供し、市場としても成長を期待される重要な地域
- 東アフリカ地域のケニアで見られた鉄道などの大規模インフラプロジェクト、および産業への投資、各種ICT環境やインフラ整備、消費財・耐久財においても需要がある

■インドと中国との関係性がもたらすもの

■経済的恩恵、印中による影響力のバランス

⇔特にアフリカではケニアのように印中との関係性の構築次第で、国内政治の局面を左右することも

■これらの地域における印中の関係性

- 印中側は相互に各国における影響力の拡大・縮小を意識すると考えられる
- インド西方地域には印中それぞれの利害関係と独自の繋がりが存在
→同地域では南アジア地域とはまた異なる緊張感の中で印中はお互いを見ている

■印中が得られるもの、各地域が得られるもの

- 中国は一帶一路構想を軸に南の諸国と連携
- インドは中東・アフリカ地域各国を積極的にG20などの枠組みに参加や加盟を促す
- 中東やアフリカ諸国にとって、国際社会において地位を向上させる契機
- インド、中国にとってはグローバルサウスの盟主としてのプレゼンスを高める契機

主要参考文献

- 熊谷 章太郎 (2024) 「アフリカとの経済関係の深化を目指すインド」 『環太平洋ビジネス情報 RIM』 Vol.24 No.94 pp.164-193。
- 近藤則夫 (2010) 「第4章 インドとアフリカの国際関係」 『現代インドの国際関係：メジャー・パワーへの模索』 調査研究報告書、アジア経済研究所。
- 佐々木優 (2019) 「第9章 「一帯一路」構想とアフリカ」 『一帯一路の政治経済学』 (平川均・町田一兵・真家陽一・石川幸一編著)、文眞堂。
- 深澤光樹 (2019) 「第7章 「一帯一路」構想と南アジア」 『一帯一路の政治経済学』 (平川均・町田一兵・真家陽一・石川幸一編著)、文眞堂。
- 深澤光樹 (2023) 「第2章 南アジア諸国と中国の政治経済関係」 『経済大国インドの機会と挑戦』 (佐藤隆広編著)、白桃書房。
- Blarel, Nicolas (2024) “Navigating US–China Rivalry in a Multi- aligned Middle East: Understanding India’s Shifting Strategy Towards the Region,” *Journal of Asian Security and International Affairs* 11(4) 536–556.
- Chan, Lai-Ha (2020) “Can China remake regional order? Contestation with India over the Belt and Road Initiative,” *Global Change, Peace & Security*, 32:2, 199-217.

主要参考文献

- Huwaidin, Mohamed Bin (2022) “China’s strategic partnership with the UAE: Foundation and prospects,” *Comparative Strategy*, Vol.41, No.3, 296-313.
- Saint-Mézard, Isabelle and Nicolas, Françoise (2022) “India–East Africa: A Not So Healthy Relationship?”, *Études de l’Ifri*, Ifri, February.
- Li, Zhuo (2023) “Prospects for China–Africa continental free trade area (CAFTA)”, *China International Strategy Review* (2023), 5:225–241, The Institute of International and Strategic Studies (IISS), Peking University.
- Pradhan, Prasanta Kumar (2020) “India-UAE Security Ties: Moving Towards an Enduring Partnership,” *Strategic Analysis*, 44:2, 125-136.
- Yu, Shirey Ze (2022) *What is FOCAC? Three historic stages in the China-Africa relationship*, London School of Economics and Political Science, February 3rd.
- (<https://blogs.lse.ac.uk/africaatlse/2022/02/03/what-is-focac-three-stages-the-new-china-africa-relationship-trade-economics/> 2025年2月23日閱覽)